

## 第二回有識者会議議事録

(小川企画課長)

大変ご苦勞様でございます。1名お見えになっておりませんが、お時間ですので早速始めたいと思います。それでは、岩谷座長、よろしく願いいたします。

(岩谷座長)

皆様、こんにちは。ご多忙の中にご参集していただきどうもありがとうございました。ただ今から、池田町地域創生有識者会議の第2回目の会議を開催いたします。実は養老鉄道の関係で国交大臣にお会いして要望活動をするという運びのため、本日私欠席をする予定でしたが、8月6日まで延期になりまして、都合がつくこととなりました。本日も進行を務めさせていただきますので、どうかよろしく願いいたします。始めに、岡崎町長から一言ご挨拶をいただきます。

(岡崎町長)

皆様、こんにちは。毎日猛暑が続いていまして、身体の方も体調を崩すのではないかという思いをいたしております。皆さんも体調管理は十分注意をしていただきまして、毎日過ごしていただきたいと思います。今日は、第2回目の地域創生有識者会議ということで、皆様方には、なにかとお忙しい中出席をしていただきまして、ありがとうございます。第1回目の折に委嘱をさせていただいて、色々な状況を知っていただき、そして、そして2回目になってまいりました。また、同時に町内におきましてワークショップを、アイデア工房会議、あるいは池女会ということで大変多くの皆様方に参加をさせていただいて議論を活発にやっただいております。もうすでに3回を数えたということで、それなりに報告はあろうかと思えますけれども、色々な問題、課題があり、また新たな見方、考え方が出てきて、池田町がどういったことに取り組むのがいいのかどうか。ということの視点が見えてきた状況ですので、それらを踏まえながらこれからひとつひとつつくりあげていきたい。そしてもうすでに8月に入りました。10月まで日にちがございませんので、ひとつずつ問題、課題をクリアーし、町の方針を決めていきたいと思っております。特に、今回私も出席させていただいて、まず人口問題について、将来の人口問題について、今日ある程度形をつくっていかなくては、という思いをいたしております。池田町第5次総合計画では、平成31年には、25,200人という数字をだしていたわけですが、とてもできる話はありません。人口分析の中では、このまま何もしなかった場合、2040年には22,000人、2060年には18,000人までいってしまう。この問題や課題をクリアーしながら、なんとか2060年には、特殊出生率1.8を確保しながら、池田町では、2060年でも20,000人を町であるということで、これからなんとか施策を展開していきたいという思いでおります。私は、7月中に各地域で町政報告会をさせて

いただきました。7会場で1,000人近い方が来ていただきましたが、その中でも人口問題をお話しし、2060年には、なんとか20,000人を維持していきたい、そのためには、様々な面で皆様方に協力をお願いしたいというお話を申し上げてきました。そういった内容を踏まえ、今日パターンの色々説明させていただきますが、そういったことをご理解いただいて、ひとつの方針を定めながらこれから進めてまいりたいという思いがあります。皆様には、よりよい池田町づくりのためにご尽力いただきたい、ご意見をいただきたいとお願い申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いたします。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。それでは、議事に入りたいと思います。サシヒロの松本さんは、直に到着されると思いますので、このまま会議を進めてまいりたいと思います。まずは、本日の会議の流れをご説明申し上げます。本日は議題1の人口ビジョン(案)について、事務局からご説明いただいた後、議論をしたいと考えております。その後、議題2のワークショップの活動報告について、事務局から説明をいただいた後に、質疑応答をとりたいと考えております。休憩を挟みまして、議題3の池田町版総合戦略(案)について事務局から説明いただいた後、議論したいと思います。それでは、議題1についてご説明お願いいたします。早田理事、お願いします。

(早田理事)

はい、事務局の早田と申します。よろしくお願いします。座って説明させていただきます。議題1に入ります前に、本日、配布した資料の最後に、前回の議事録を付けさせていただきます。先日事務局からメールや手紙で皆様宛てにお送りした第1回の議事録について、皆様からご意見をいただきまして、修正したものがこちらでございます。養老鉄道の中澤委員と、女性セミナーの勝野委員と、教育委員の国枝様からのご意見を踏まえ修正させていただきました。他にも修正箇所がありましたら、その修正内容を教えてください。

(民生委員 竹中)

13ページの一番下から3行目のところに、私の発言で、「福祉医療費の助成年齢が18歳までとなっているが、18歳まで無料となると、うんぬん」と書いてありますが、この部分は私の意見ではありません。要するに、このような制度があるということで説明させていただいただけで、私自身は偏っているということは思っていないので、これは私の意見と違いますので、訂正をお願いします。

(早田理事)

そうしますと、削除でよろしいですか。

(民生委員 竹中)

名前を覚えておりませんが、同じグループの方がおっしゃったのは知っています。すみません、どの方だったかお名前はまだ覚えていません。私は言っていないです。

(早田理事)

分かりました。ありがとうございます。

(岩谷座長)

その件につきましては、どなたが発言されたか。どなたも発言しておられないということであれば、削除いたします。いらっしゃいませんか。じゃあ、削除お願いいたします。

(早田理事)

では、この部分を削除させていただいた形で、議事録とさせていただきます。ありがとうございます。

それでは、改めまして人口ビジョン（案）について説明させていただきます。資料1をご覧ください。前回の有識者会議にて説明をいたしました池田町の人口分析と重複する箇所があります。新しく追加した部分を中心に説明させていただきます。

目次を開いていただいて、1ページ目をご覧ください。1ページ目については、前回と同様となりますが、下部にある表の部分について1980年から2005年までのデータ、及び2015年から2035年、2045年、2050年、2055年の数字を追加させていただきました。

2ページ目をご覧ください。2ページ目の人口ピラミッドは、新しく追加しました。5歳毎の年齢構成について、2010年と2040年を比較しました。そうしますと、65歳以上の高齢人口が増加すること、また14歳以下の年少人口が減少することが分かります。2010年は2.7人で1人の老人を支えることとなりますが、2040年には1.6人で1人の老人を支えることとなります。また、町内に1つある池田中学校は、現在1学年8クラスありますが、2040年時点では5クラスになるということも予想されます。

続きまして、3ページ目をご覧ください。こちらにつきましては、今年の7月1日に総務省が最新データを公表しました。それに伴いまして、前回は2014年の数字を池田町が集計した数字を掲載しておりましたが、今回は総務省が集計している数字を掲載しました。

続きまして、4ページ目をご覧ください。4ページ目については、前回、馬田委員から合計特殊出生率の考え方に関しまして、ご質問をいただきました。合計特殊出生率につきましては、1人の女性が一生に産む子どもの平均数と定義されておりまして、15歳から49歳の女性の出生率を足し算したものになります。

続きまして5ページ目をご覧ください。5ページ目は新しく追加しました。こちらは、人口移動、社会増減について分析したものでございます。5歳別の年齢別階級について示しております。1980年から2010年につきまして、10歳から14歳の若者が15歳から19歳になる時、また、15歳から19歳の若者が20歳から24歳になる時、大規模な純減が発生しております。これは、町外への高校大学進学に伴うものと予想されます。一方、20代30代については、純増となっております。これは、就職、結婚、出産、家を購入するタイミングで、池田町に流入しているためと予測されます。

6ページ目をご覧ください。6ページ目は前回と同様でございます。

続きまして7ページをご覧ください。7ページ目は新しく追加しました。こちらは現状のまま何も対策をとらなかった場合、将来池田町の人口がどうなるかについて、社人研が推計したものと日本創生会議が推計した2種類の推計を掲載しております。社人研の推計については、1ページ目に掲載してあります、総人口の推計の数字と同様の数字となっております。社人研の推計と日本創生会議の推計の違いとしましては、社人研の推計では全国の移動率について今後一定程度縮小する人口の移動が段々少なくなっていくと仮定しているのに対しまして、日本創生会議は減らずに今後も同じように続いていくと仮定している点にあります。池田町の場合は推計の基礎データとなっているのが、2010年から2015年のデータがベースになっているのですけれども、池田町の場合は、社会増減が、この時期はほぼゼロでございました。社会増減による影響がほとんどないので、日本創生会議の推計と社人研の推計は、ほぼ同じ値で推移をしております。

続きまして、8ページ目をご覧ください。これまでのものを簡単にまとめたものがこちらでございます。ひとつずつ読ませていただきます。池田町の総人口は2010年ピークに減少傾向に転じ現状のまま何も対策を講じない場合、2040年には、22,160人、2010年比でマイナス11.3%。2060年には、18,622人、2010年比でマイナス25.5%となることが予想されます。池田町の人口減少に対する影響度は、社会増減よりも自然増減の方が大きいと言えます。自然増減は、合計特殊出生率は全国平均よりも高い傾向が見られた一方で、婚姻率では全国平均よりは低い傾向が見られました。従いまして、独身者を対象として結婚の希望を叶える施策を実施することが、出生率を高める重要なポイントと考えられます。一方、社会増減は、高校・大学進学の際での転出者数が多く、その転出先は主に大垣市、岐阜市、名古屋市であります。2008年以降は、社会減の年が多くみられるようになってきました。高校・大学進学に伴い進学した方が、20代30代の就職、結婚、出産、家の購入のタイミングで町内に戻ってくる施策を実施することが、社会減に歯止めをかけるポイントだと考えております。

続きまして、9ページ目をご覧ください。冒頭、岡崎町長からのご挨拶にもありましたとおり、池田町での人口減少をどうするのかというところについて、ご説明させていただきます。まず国及び県の人口対策について、ご説明させていただきます。国は、合計特殊出生率について、2030年に1.8程度、2040年に2.07程度を実現することで、

2060年に1億194万人を維持することを目標としております。これは、2010年2060年比でマイナス20.4%という数字になります。岐阜県については、現在、暫定版が出ているところですが、まだ、確定版が出ておりませんので、確定版が出た後に次回有識者会議に反映させたいと考えております。この減少率を池田町に当てはめた場合、どうなるかといいますと、池田町の2060年の人口は、式にあります通り、19,884人となります。従いまして、国の減少率の水準とほぼ同水準であるマイナス20.4%にとどめ、2060年で人口2万人を維持することを目標としてはどうかと考えております。

人口2万人を維持するために、2つ目標を掲げました。1つ目は合計特殊出生率の上昇です。2030年に合計特殊出生率1.80を実現し、2030年以降は維持するとしています。これを実現するために、池田町の課題となっている婚姻率の上昇を目指して、若い世代の結婚の希望を叶える対策を実行していきたいと考えております。婚姻率の具体的な数値目標につきましては現在検証中ですので、次回までに示していきたいと考えております。2つ目は10代から30代の転入、転出数の維持でございます。これにつきましては現在、社人研の推計のベースとなっている2005年から2010年の水準を維持していきたいと考えています。戻っていただいて、3ページ目をご覧ください。細かい数字で恐縮なのですが、3ページ目の一番下のところに、転入数、転出数の表がございます。こちらは2005年から2010年を見ていきますと、68人プラス、58人プラス、131人プラス、マイナス21人、121人プラス、マイナス21人となっております。この時期は社会増減の数字がプラスであった時期でした。一方、2011年以降はプラス31、マイナス23、プラス30、マイナス75と以前より悪くなってきております。今後このような形で社会減が進行しますと、合計特殊出生率が1.8とするだけでは、2万人を維持できないこととなります。したがって、社会減の進行に歯止めをかける必要がございます。

9ページにお戻りください。これを実現するために1つ目、中高生に対し地元の企業と連携した体験キャリア教育を実施し、地元での就職を促す。2つ目、多世代交流や、古くからの住民と転入者の交流の機会を通じて、池田町への愛着心を高め、定住対策をはかっていく。3つ目、観光資源のPR活動を通じて交流人口を増やしていく取り組みが重要だと考えております。

続きまして、10ページ目をご覧ください。社人研の推計が青色のように人口減少が進むのに対して、2030年に合計特殊出生率1.8を実現し、10代から30代の転入・転出数について2005年から2010年の水準を維持できた場合、パターン1の黄色のようなグラフになります。なお、国と同様に、仮に2040年に合計特殊出生率を2.07まで上げることができた場合、パターン2のような緑色のグラフになります。

最後に11ページをご覧ください。こちらは現在の総人口の話ですが、年齢3区分別、年少人口、生産人口、高齢人口別にみたグラフと、あと、高齢化率の長期的な見通しにつ

いて示したものでございます。青色の社人研の推計では、高齢化率の増加に歯止めが掛からず、2060年には35.8%まで増加していきます。一方、合計特殊出生率1.8を実現したパターン1の黄色のグラフの場合ですと、2040年以降高齢化率が32%台で止まります。仮に、合計特殊出生率2.07を実現したパターン2の緑のグラフですと、2045年の32.3%をピークに、2060年には31.7%まで下がることを見込まれています。この合計特殊出生率が2.07は、池田町の現実と比べますとかなりハードルが高いと考えておりまして、池田町ではまず2030年に合計特殊出生率1.8を実現し、10から30代の転入・転出数について2005年から2010年の水準を維持することで、2060年には人口2万人の町を目指していきたいと考えております。以上で説明を終わります。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。それでは、ご質問やご意見等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

(中日新聞 加藤)

4ページのところで合計特殊出生率が池田町算の場合平成24年は1.53あったのに平成25年は1.40とかなりダウンしていますが、これは何か理由があるのか、たまたま少なくなった年なのか、分かればお願いします。ちなみに岐阜県も結構ダウンしているのですが、これももし分かればお願いします。

(早田理事)

3ページをご覧ください。社会増減の表がありまして、2013年の出生数が179人となっています。他の年に比べますと、かなり悪い年になっています。何故179人まで落ち込んだということになるところまでは、まだ分析が出来ていません。岐阜県の数字も低いということも把握していません。

(岩谷座長)

他はございませんか。よろしいですか。なければ今説明がありましたように、2060年には人口2万人を維持するという基本方針については、ご賛同いただけたということでよろしいですか。では、この報告を了としましてよろしいですか。では、この報告を了いたします。

今回のベースに必要な修正を加えて、次回会議日程、最終取りまとめをすることにしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。岡崎町長は、公務によりここで退席をされますので、よろしくお願ひいたします。それでは、本日の課題の2つ目でありますワークショップの活動報告に移りたいと思います。事務局の方から説明願ひます。早田理事。

(早田理事)

引き続きまして、資料2についてご説明させていただきます。資料2をご覧ください。それと、参考資料1と参考資料2も併せてご覧いただければと思います。

それでは、ワークショップ「池女会」と「アイデア工房会議」の開催状況について、報告させていただきます。委員の方にも何人かご出席いただいたり、実際当日に見に来ていただいたりと、ありがとうございます。

池女会につきましては現在27名、アイデア工房会議につきましては現在37名の方から参加申し込みがありました。毎回、池女会は17名程度、アイデア工房会議は大体25～26名程度の方が出席をしております。アイデア工房会議は、老若男女が対象となっております、下は20代の学生さんから、上は77歳の方まで参加をしております。職業につきましても有線放送の方、養老鉄道の方、お坊さん、デザイナーと様々でございます。

これまで、それぞれ3回開催しましたが、1回目と2回目では、それぞれのテーマについて課題を考えていきました。3回目では、その課題を解決するため、どんな事業が考えられるか、ということ話し合い始めました。その状況について、説明をさせていただきます。

まず、池女会の方から説明させていただきます。池女会については、テーマを3つに分けました。1つは結婚、もう1つは子育て・出産、もう1つは日常生活、こちらはニーズが多かったので、班を2つに分けまして、全部で4チーム、各チーム4～5人ぐらいの人数で、わいわい話し合いながら進めていきました。その風景や、それぞれの会がどうだったかについては、参考資料3がありますので、後ほどこちらをご覧ください。

まず結婚については、主な中核となる課題が2つ出ました。1つ目は、「出会いの場が少ない」ということでした。出会いの場が少ないということについて、少し掘り下げていきますと、例えば、「町がやっている結婚相談所は行きづらい」、「女性から見て、出会いを求めていく、というのが恥ずかしい」、「婚活という言葉がそもそも嫌だ」「同世代の人と集まる機会がなかなか無い」という意見が出てきました。そこで、3学年合同の同窓会や、池女会のようなワークショップをやってはどうかという意見が出てきました。それを具体的な事業として、考えたものが、「和プロジェクト」になります。2つ目の課題は、「結婚後どうなっていくか分からないことが不安である」というのは、前回の有識者会議でも国枝委員から「女性からすると、子育てや仕事に対する安心感が大事だ」というお話がありました。その話は、まさに、このチームでも出てきて、子育てや仕事に対する不安、これによって結婚について良いイメージが持てないという意見が出てきました。

子育て・出産チームでは、様々な課題が出てきました。ここでは不登校のお子さんを持たれた方が参加していきまして、不登校のことがひとつ話題になりました。「学校に行きづらい状態になっている子が多いのではないか」、「不登校の子どもたちの思いを大人が理解できていないのではないか」、「親が困っていることが正確に先生に伝わらない」「同じ

悩みを相談できる場があると良い」という意見が出てきました。

別の課題として、「子育て情報が少ない」、「町が発信している情報が見えづらい」という意見も出てまいりました。それに関連する意見としては、「世代間の交流が少ない」、「母親同士のたまり場がない」という意見も出てまいりました。「父親の家事への参加が少ない」ということも話題になりました。「夫婦での子育て・意思疎通がなかなかできていないのではないか」ということが話されています。

他にも「子どもにとって道路が危ない」ということが話題になりました。これは、東地区のある道で、実際に自転車に乗っている時に、道幅が狭くて、自転車の通り道が危なくて、田んぼに落ちたことがあるという具体的な話も出てきました。

「おつかいできる店がない」というのは、これも東地区での話だったのですが、駄菓子屋さんが昔あったのが無くなったそうできて、「子どもだけで安心して行かせられるお店が無くなった」ということでした。

「子連れで遊ぶ場所がない」という意見もあり、公園のことが話題になりました。公園は、どのチームでも話題になりまして、女性の中ではかなり関心度が高いテーマでした。このチームでは、「スポーツ公園では遊びづらい」、特にスポーツ公園には真ん中に大きなすべり台があるところでして、これが、子どもたちがどこにいるかという母親の視線を遮ってしまうということでした。一方、神戸町のふれあい公園というものがありますけれども、ここは遊具の真ん中にベンチがあって、そこにお母さん達が座って、子どもたちの様子がすぐ見える状況にあるそうです。ふれあい公園と比較して、スポーツ公園だとちょっと不安だという声が出てきました。また、「小さい子の遊具が欲しい」とありますが、小さい子というのは具体的に言うと、幼稚園児です。よくブランコとか、小学生に取られてしまって、幼稚園児がなかなか使えないということがああるそうです。最近のブランコですと、小さい子の足しか入らない形のブランコがあるそうできて、そういうものであれば幼稚園児しか使えず、使い分けができるのではないかという具体的な話も出てまいりました。

日常生活 A チームでは、情報発信のことが主な話題となりました。「池田町の良いところをいまいちアピールできていないのではないか」、ということが話題になりました。具体的に言いますと、「子ども達が自分の町の魅力を知らない」、「町内に昔からいる人にとって池田町のことが当たり前、普通になっていて、魅力を感じづらい」という意見が出てまいりました。

もう1つ、これは人と人とのつながりの話なのですが、「町外から新しく転入してきた人にとって、従来からあるグループに対して仲間になりづらい」という意見が出てきました。また、昔、宮地でクラフト展がありましたが無くなりました。そういうイベントが無くなってきて、町民が一緒に取り組めるもの、場所が、減ってきているのではないか、それに伴ってつながりが段々弱くなってきているのではないか、という話が出てまいりました。

他には、買い物難民の話も話題になりました。免許を持っていない人にとって買い物が大変。コミュニティバスが現在運行しておりますが、実は周回コースが一方方向の運行にな



っております。従って、場所によってはかなり行くまでに時間がかかってしまいまして、使いづらいという話が出てきました。

日常生活 B チームでも、人と人とのつながりが希薄という話題が出ました。「多世代の交流の場がない」「地区間の垣根を跳び越えたイベントをしたらいいのではないか」や、「地元の田んぼ作りの達人が、新しく転入してきた人や若い人、子どもたちに田んぼ作りの技術を教えたらいいのではないか」「DASH 村 IN 池田というのをやったらどうか」という意見も出てきました。

日常生活 B チームでも「安心して遊べる公園が無い」ということが話題になりました。このチームは具体的にこんな公園を作ったらいいのではないかという話ではなくて、そもそも公園の管理がきちんとされていないのは何故だろうかということが話題となりました。これを考えた時に、その公園づくりに町民が関わっていないからではないか、自分が作ることに関わっていないので愛着が持たなくて、管理がずさんになっているのではないかということが話題になりまして、そもそも地元の人たちと一緒に公園づくりを始めることができないかというアイデアに繋がりました。

続きまして、アイデア工房会議の方について説明させていただきます。アイデア工房会議につきましては、5つのテーマでやりました。移住定住、観光、教育、産業、福祉です。

移住定住チームでは主に PR が下手だということが話題になりました。ここでは池田町民が、先ほどの話とも通じますが、「池田町に何も無いと思っている」とか、「住民がそもそも移住の必要性を感じていないのではないか」とか、「移住者に PR 手段が知らないのではないか」ということが話題になりました。

続きまして、観光チームに移ります。観光チームでは主に、2つのことが話題になりました。1つ目は「年間を通じた観光が無い」ということです。「桜が散ったら温泉しか観光が無い」、「自然豊かなところが観光に活かされていない」、「池田山へ登るのは一人だと不安だ」、「案内人やガイドさんがいたらいいのではないか」という意見が出てまいりました。

2つ目は養老鉄道の利用についてです。養老鉄道の利用が減ったのは何故かと考えた時に、「学生が車の送迎になりつつある」や、中には「駐輪場や駐車場が少ないのではないか」という意見が出てまいりました。また、「養老鉄道については大垣の店とタイアップして割引することをやっているが池田町でもできないか」という意見もありました。

続きまして、教育チームに移ります。教育チームでも、不登校の子どもを持って悩んだことのある母親が出席をされて、「不登校への理解がないのではないか」ということが話題になりました。

また、前回紹介させていただいたデータで、職業が決まっていない、尊敬する大人が身近にいないと考える子どもが増えている傾向がございます。そのことが話題になりまして、「身近にいる大人が普段仕事でなにをしているのか見えずらい」「子どもが夢を持ちづらくなっているのではないか」「池田町で生き生きと働いているかっこいい大人と子どもと触れあう機会があったらいいのではないか」、そのような意見も出てまいりました。

他には、子どもの通学路の話や夜の街灯がなくて不安だという話、教育環境が充実していないというのは、例えば特別支援教室が全部の学校にないという話が出てまいりました。

続きまして、産業チームでは、「産業が盛り上がっていない」という広いテーマで話されていたのですが、具体的には、1つ目が農業、2つ目が小売店舗・サービス業、3つ目が雇用の確保、この3つについて話されておりました。

農業につきましては、「元気が無い」、「雇用維持ができない」とありますが、具体的に言いますと、例えば「米の販売単価が低い」、「売り方のバックアップがあつたらいいのではないか」という意見が出てまいりました。「売り方のバックアップがあつて、販売単価が上がれば、雇用としてつながって、後継者も生まれるのではないか」「後継者がいないことにより、農地が荒廃する問題も解決につながるのではないか」という意見が出てまいりました。

小売店舗・サービス業につきましては、「特産品・観光に特徴がない」ということが話題になりました。「特産品・観光に特徴がないのは、そもそもそういうものが無いのではなくて、PRが下手なのではないか」という意見があり、例えば「ネーミングが大切だ」といったことや、「IT・SNSを活用した情報発信・販売をすれば良いのではないか」というアイデアがありました。

雇用の確保につきましては、主に企業誘致のことが話題になりました。「町外にある企業に対してPRが少ないのではないか」といったことや、「既に移転してきた、例えばアピさんとかそういった会社に対して、どうして移転してきたのか、移転してきて実際どうだったかを分析してはどうか」といったことや、「外の企業に対して定期的に情報周り挨拶をかねて行ったらどうか」というアイデアも出てまいりました。

続きまして、福祉です。「地域住民が集まる場所がない」につきましては、池女会と似たような話が出てまいりまして、「子どもたちと高齢者の触れあう機会が少ない」、「障がい者と一般の方の触れあう機会が少ない」、「高齢者同士が集まって交流できる場所が少ない」といったことが話題になりました。

つづいて、「介護サービスが十分に受けられていない」については、「保険料が高い」「医療・介護・町の連携の取り方がうまくいっていないのではないか」という話題になりました。また、このチームでも「買い物難民の高齢者が増えている」ということが話題になりまして、「コミュニティバスが要望に沿っていないのではないか」、「運行経路が不便なのではないか」という意見がありました。

以上で、説明を終わります。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。ワークショップの活動報告の説明がございました。ここでみなさんのご意見等を聞きたいと思いますが、どうですか。

(商工会 松岡)

池女会の中のご意見で、子どもにとって自転車の通り道が危ないという話がありました。テレビで、今年、自転車の交通規定がまた厳しくなっていることを見まして、自転車は車道しか走っては駄目ということだと思いました。池田町の場合、農道がありますけれども、歩道が結構広く、ほとんど人が通っておりません。そういうところは特例で、子どもの自転車は通ってもいいようにしますと、より安全ではないかと思います。車がわりと走っている農道で、小さい子どもが無理して自転車で走るとするのは、ちょっと逆に危ないと思います。

私も池田町に住んでいるわけですが、近所にサークル K があり、小さい孫が自転車で買い物に行きたいと言うと、「車道ではなく歩道を行け」と言っておるわけですが、そういうところをもうちょっと考えて、地方は地方でね、考えていくべきだと思います。以上です。

(牛嶋副町長)

今松岡委員のほうから、歩道の中を自転車が走るということでございますけれども、道路交通法が変わりまして、歩道の中は自転車が通ってはいけないという法律が決まりました。これは何故かと言いますと、歩道の中で自転車が走る、自転車の危険性というよりも歩行者の危険性を重視した法律でございまして、自転車が歩行者とぶつかった時に怪我を及ぼすということで分離するということでございます。それで、幅 2.5 m 以上のものにつきましては、自歩道ということで自転車と歩行者が歩ける幅員というものはあるのですが、それを今自転車がブレーキを持たないような、そういう自転車ができました、衝突という危険性が増える中で、こういうふうになってきたということでございます。また、道路の幅員のローカルルールの話もありますので、こういう点も含めて、協議会にて、お話を聞かせていただきたいと思いますと思っておりますが、今現状としてはそういうことですので、お願いしたいと思います。

(商工会 松岡)

はい。協議会の時に協議にかけると言っておりますので、一度相談をしておきます。あと、もうひとつ。

(岩谷座長)

はい、どうぞ。

(商工会 松岡)

アイデア工場の産業のところ、特産品や観光に特徴がないというところでございます。が、確かに、特徴があるものがない、また、それなりの努力もしていないと感じています。

あるところの例であります、初め3店舗で、町の特産品として、同じ味で同じものでつくって食べてもらおうということをはじめたところ、最後には25店舗に増えて、それはその地域の名物になったということがありました。例えば、ふるさとまつりでは出店がありますが、テーマをつかって池田町の食べ物を出店者のみなさまに提案してもらうことを、町で考えたかどうかと思います。そして、それがいずれは池田町のおすみつきで、池田町の食べ物だとなつなっていくといいのではないかと思います。そういうものを提案、発掘するために、なにかきっかけを作らないといけないと私は思っております。

(岩谷座長)

他ございませんか。はい、竹中さん。

(民生委員 竹中)

池女会では、安全に遊べる公園が欲しいという意見と地区の公園は地区で考えようという意見があったようですが、具体的にこういう公園を整備しようというアイデアは出ていたのでしょうか。

(早田理事)

具体的に公園を整備する場所まではまだ話題になっていないのですが、例えば地区別に地区の公園を作ったらどうかと言う話が出ました。公園を新しく整備するとお金がかかるというのは参加した皆様もわかっていますので、例えば今ある本を移動図書館のような形で持ってきたらどうか、卓球台を持ってきてそこで卓球やったらふれあいが生まれるのではないかなど、今あるものを活かしてバザーのようなかたちで公園を交流の場にしたらどうかという意見が出てきました。

(民生委員 竹中)

池田町のいわゆる立派な公園としては、霞間ヶ溪のスポーツ公園と池田公園あたりが一番大きいあれかなと思いますが、ハリヨの池の横にも公園があるといえはあります。ただ草がぼうぼうと生えており、ブランコも鉄棒もさびているというような状況で、まず公園行って遊ぼうという感覚になれる場所ではありません。たぶん当初は、希望があって作られたところなのだろうとは思いますが、メンテナンスが十分されてない。それぞれの地区にそれなりの公園らしきところというのがありますが、どうみても少ない。上八幡の住人としては、距離が近い神戸町の公園によく孫を連れて遊びに行きます。神戸町の公園は、やっぱり行こうとなる施設です。そういう意味で、池田町にも、予算の問題などがあるのでしょうかけれども、2つ3つ、あのような公園があってもいいのではないかと思います。

私は民生委員を7年8年やらせていただいでいて、子どもに関することで多少気になる

ことがあります。今月の議会便りに、八幡小学校の西の通学路が危ないという話が掲載されていたと思います。あの辺りは明らかに道路が狭いので、朝の通学時間帯だけでも通行止めにするなど、場合によっては思い切ったことしないと安心できないと思います。また、国道でも、歩道をちゃんと歩いてもトラックが来たらぶつかるのではないかと思える場所があちこちにあります。そういったところを整備していかないと安心して通れる道にならないと思います。ただ、あれもこれも整備して欲しいと言ってもあれなので、こういう池女会の中で、そういうお子さんを持っておられる年代の方が、安心して遊べる場所が欲しいという意見は大切にしないといけないと思います。

話が変わりますが、つい先日、東八幡神社にお宮さんがございまして、月に一回、朝の8時から1時間程度、草取りだとか掃除をやります。今年は、中学生の子がボランティアで、10人ぐらい来てくれました。草取りなど、よくやってくれて、こんな時期ですから汗だくになってやってくれました。阿弥陀さんの仏具を磨いたりもしました。その時に思ったのですが、実はお宮維持は、今後、ものすごくお金がかかるのではないか。手洗い場、手水舎を修繕したときに、300万から400万かかった。神様の石垣を積み直して、300万。真ん中の神様までやると800万。拝殿までやると1000万かかりますという話になり、要するにやらなければいけないことが多々あるということになります。そうすると、お宮さんを維持していくのに、どうやって維持していけばいいのだろうか。我々や我々より年配の方は歴史があるため当然やってかなければいけない、そのために、寄付金が10万、20万必要だとなると仕方がないと思えるのですが、我々の息子にそういう話をして、なぜ、そんなところに10万も20万もお金をかけないといけないのかという話になります。先ほどの話を聞いて、思ったのですが、そのお宮さんを全部つぶして立派な公園にしたら、農村公園なども併せて、すばらしい公園ができるのではないか。場合によっては、子どもを持つ若い親達が安心して遊べる場所を、思い切って作ることを考えていただく必要があるのではと思いました。

<勝野委員 挙手>

(岩谷座長)

はい、それでは、勝野委員、どうぞ。

(女性セミナー 勝野)

日常生活 B チームの、人と人とのつながりが希薄というところで、多世代交流の場がないという意見が出ておりますけれども、やはりこの地域、池田町というものは昔から山の子とか色々なものがありまして、ある程度多世代交流がありました。それが、今は、そのほとんどがなくなっていて、多世代で交流することが、例えば小さな班でも班の会をするのに、本当に年に2回程度になりまして、周りにどのような人が住んでいるかも分か

りづらい時代になってきました。今、池田町では、地域ごとにお祭りをするようになり、ある程度町からも PR していただいています。各地域においては、一部の団体を除いて、何かをするという役割分担はないようです。そうすると、お祭りに行くだけになります。そういう時に、こちらの地域は、今度は当番でやることがあると、みんなが自分たちのまちのお祭りだという気持ちでやれるのではないかと思います。

(岩谷座長)

これは、地域によって差があるのではないかと私は思います。例えば、私の住んでいる地区は、やっぱり昔からの人と新しく入ってきた方が住んでいらっしゃる場所ですけれども、社会福祉協議会的なところでの多世代交流というのと、地区で昔からつちかわれてきた多世代交流というのはおそらく違うと思います。私どもは、座禅会というのをやって、小学生は全部参加する、地域の老人会は全部参加する、その親御さん達も全部参加する、それでゲームをやったり、お経を読んだり、そういうので自主的に集まるという形が残っていますが、結構、その地域によって、特に八幡のような新しい町は、なかなか集まりにくいというのは確かにそうかもしれません。

(牛嶋副町長)

今、山の方の話がありましたけれども、これも今言われているように、基本的には地域差がある。私たちの集落では役員と行事はもうやめようという意見があります。というのも、今の若い方から、現場の立場になると、仕事が忙しい、つきあいがある、その日は行けないなど色々な意見が出てきます。そうすると、高齢者の私ら以上のものがつきあっていく必要がでてきて、そうすると、あれを減らす、これを減らす、だからもう行事はできませんという意見が出てくる。今言われましたように、どこかでイベントがあったら行きますけれども、スタッフは嫌だという気持ちがあります。若い方ももう少し多世代と交流をしたいという気持ちがあればよいと思うところです。

(岩谷座長)

遊びに行くのは良いけど、役員はやりたくない、ボランティアはやりたくないという話になっていくと、なかなか難しい。蛍祭りには行きたいけども、準備・後片付け・清掃までは、まあそれは地区の役員さん方にやってもらえれば良い、私らは1時間や2時間買い物行って、花火を見て、そのぐらいのものだということではないでしょうか。

(女性セミナー 勝野)

私がこの地域へ来た時、色々な所に参加する必要があつて、若い時は嫌でした。しかし、それによって、地域のことがよく分かりました。それは私たちにとって、今となっては良かったと思います。何にも知らないところに来たのですけれども、そういう所で覚えてい

きました。ある程度は、嫌でも参加するという部分が出てくれば良いと思います。

(岩谷座長)

新しい住宅が建つと、古い班ではやりたくない。自分たちだけでやりたいと言う。というのは、お葬式などでは、昔からの人と付き合いをするよりは、新しい住宅だけで付き合い合った方が、気持ちが相通ずるものがある、その方がよいという話を結構聞きます。

<民生委員 竹中 挙手>

(岩谷座長)

はい、どうぞ。

(民生委員 竹中)

民生委員を仰せつかって様々な会議に参加すると、例えば、子供会や福祉会、老人会、女性の会など地区の団体が、極端なことをいうと、みんなそれぞれ単独の団体に動いていると感じます。今、勝野さんがお話になったように、様々な団体を集めて一緒にやりましょうというのはなかなか至難の業です。例えば、老人会は、ずっと会長が替わらない。そうすると、さすがにもう疲れて、会長自身が色々な会議に出てこないという状況になってきて、それではどうしようもないと思っていました。このような中、たまたま今、自分が現役の民生委員あるいは福祉会にいるということもあって、いきいきサロンでは、とりあえず何かやろうかということで、先ほどの世代交流の場として、2～3年前から小学生に参加してもらうということをはじめ、だんだん回数を増やしてきました。いきいきサロンは、池田町の75歳以上のお年寄りが対象ですけれども、そこへ子どもを入れて、ついこの間は、小学校3、4年生の子と一緒に流しそうめんをやりました。12月は花餅作りで、小学校1年生2年生の子と一緒にやる。上八幡は人口が多いものですから、いきいきサロンと小学校2学年合わせると100名超えます。その準備がなかなか大変で、小学生全員という計画はとてできないですから、2学年ずつやっています。最初の1回目、2回目は小学生の子には、いきいきサロンのお客様という格好で来てもらい、時間がきたら流しそうめんのところと並んで、食べてもらうということになっていました。去年ぐらいからは、子どもができることは全部手伝ってもらおうということにしまして、花餅作りだったらお餅を伸ばして切るとか、おじいちゃんおばあちゃんのところまで運ぶとか、流しそうめんであれば、女性の会の人準備してくれたものをお年寄りが食べるまで運ぶとか、片付けるとか、ビンゴゲームやる時にビンゴの機械を回したり、発表したりとかいうことも小学生にやってもらう。そうすると、子どもがすごく喜んで飛びかかります。「俺がやりたい、やりたい」と出てくるのを制止するのが大変なくらい、子どもというのは非常に喜びます。お年寄りのおじいちゃんおばあちゃんにとっては、孫やひ孫ぐらいの子が持

って来てくれるというのは、普段そういう機会がなかなかないものですから非常に喜んでもらえる。

こういう形をできるだけ増やしてやっていこう、あるいはこういう形であれば、世代間の交流も図りやすいと思います。先ほど中学生の子も来てくれたという話もしましたが、中学生の子も一緒に考えられるといいと思います。なかなか一気にできないこともありますが、少しでも団体間の横通しをつくることを考えていかないと、団体ばかりが増えてそれぞれが単体で行動しているということだけでは、かえって役をやっている人の悩みが増えるだけで、良い方向に行かないと思います。そういった意味では、とりあえず子供会と一緒に何かやろうかですとか、女性の会に声を広げてやっていこうかということで試行している例としてお話ししました。

(岩谷座長)

ありがとうございます。今は、大人も忙しいですけれども、子どものスケジュールというのがすごく忙しくて、調整がきかない。私も、今朝、子供会の多世代交流のイベントがありました。東京出張が予定されていたので、日程変更も考えたのですが、次の週にしたら、なかなか調整がきかない。なぜ調整がきかないかというと、親より子どもの都合です。子どもが色々なところへ誘われすぎているのか、ひっぱりだこで、今週は駄目と言った後に、お母さんたちも私はこの週が駄目ということで、なかなか調整がきかず、たった1時間か2時間の話なのですけれども、そういうような部分で悩みました。子どもさんのスケジュールのほうが大変なのかという気がします。区長さん方が大変な思いをしてやっておられると思う。福祉会にしたって、その部分では本当に大変だろうと思う。

まとめますと、池女会からも、アイデア工房会議からも率直な意見が挙がってきているのは事実でありますので、これを踏まえてとりまとめようと思いますが、それでよろしいですか。

それでは、これにて報告を了とさせていただきます。ここで休憩に入りたいと思いますが、50分まで休憩と致します。

<休憩>

(岩谷座長)

それでは、本日の課題の3つ目であります池田町版総合戦略骨子(案)に移りたいと思います。事務局の方から説明願います。早田理事。

(早田理事)

それでは、資料3に沿って説明させていただきます。総合戦略骨子(案)として、ワークショップで出てきた意見を踏まえ、27年度に実施予定の事業を示しております。



1 ページ目をご覧ください。今後取り組む大きな4つの柱についてまず説明をします。4つの柱については国が定めた4つの柱と同様にしたいと思っています。1つ目は、池田町に仕事を作り安心して働けるようにする。2つ目は、池田町への新しい人の流れをつくる。3つ目は、若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える。4つ目は、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する。この4つのテーマに当てはめて、池田町の6つの事業についても進めていこうと思います。順に説明します。

1 ページ目をご覧ください。この事業は、第一次産業と加工販売業者とのマッチングを促進しようというものです。背景としては、町内の第一次産業者は作ることが専門家ですが、加工や販売についてはノウハウや実体験が少なく、自力で、6次産業化を目指して加工や販売をするまでは大変だという声がありました。そこで、役場が加工や販売が得意な業者と農家をマッチングする機会を作って、その結果として、商品の付加価値の向上や、販路開拓をしていく、それにとまって農家の収入が上がっていった、農家になりたいと思う後継者があらわれる、そういう姿を目指していったらどうか、という意見が出ました。

2 ページ目をご覧ください。関連した事業として、作った特産品の情報発信をもっとうまくやってはどうかというものです。特産品の生産者の収入を増やして、雇用者数の増加をつなげるためには、生産物を効果的に販売する必要があります。しかし、先ほど申しましたように、第一次産業の担い手は、商品販売についてのノウハウや知識がありません。そこで、池田町の特産品をPR・販売するウェブサイト構築しようと考えています。具体的な進め方としては、まず、特産品の募集や、広報販売に関する認知調査をします。その後、その特産品をどのように販売していくかという方法を検討します。その際には、デザインやキャッチコピーなど、魅力的なPRができるような方法を考えKPIとは、目標値のことです。目標達成ができていないかどうかをチェックし、うまくいっていない場合は改善する必要があります。例えば、ウェブサイトに登録された商品数、1日あたりの閲覧数、その商品がウェブサイトだけではなくてグーグル等での検索数、最終的な目標は、情報発信、ウェブサイトを通じた商品の購買数、と設定したらどうかと考えております。

続いて3ページ目をご覧ください。こちらは今回、目玉の一つとして考えている事業でございます。池田山を活用した観光ツアーの実施です。こちらは年間を通じた観光資源がない、池田山を活用しきれていないのではないかと、という意見があったところから、池田山を活用した観光ツアーをつくらうというものでございます。例えば、ご存じの方も多いですが、熊野古道のウォーキングツアーのようなことを池田山でもできないか、ということです。そのために、例えばハード面では、休憩所を整備したり、見晴らしが良い場所を整備したり、Wi-Fiを使えるようにすることが考えられます。ソフト面でのポイントは、観光ツアーガイドさんです。熊野古道が成功している1つの理由として、ガイドさんの案内が魅力的だという意見があります。池田町としては既に観光ボランティアの方がいますが、改めてきちんとツアーを決めていったら、それを説明できる人材の育成が大切だと考えています。従って、本事業の最終目標はツアーの参加者数や売上高ですが、それにつながる前

段階として、例えばガイド講座への参加数とか、ガイドの資格を持った人の数、また、設定した観光ツアーの数が考えられます。

4ページ目をご覧ください。町民による池田の魅力の再発見、及び多元的な情報発信事業です。こちらについては、池田町民が、池田町の良さをいまいち実感できていないのではないか、という背景から生まれた事業です。池田町民が池田町の良さを実感するために、まずは、町民自らの手で自分たちの観光資源を発掘して、町内での認知向上を図る。池田町のことが好きな人が増えたら、そういう方達は、自然と町外の方にPRしてくれるでしょうから、そういう流れに持っていったらどうかということでございます。具体的にどういうことをやるかと言いますと、「るるぶ」や、「じゃらん」のような、魅力的な観光雑誌をつくることを目指して、町内の人から、例えばこんな美味しいお店があるよ、ここにはこんなきれいなところがあるよ、ここにはこんな面白い人がいるよ、という記事を募集しようと考えています。本事業の目標として、例えば、ホームページを作った場合であれば、そのアクセス数。観光雑誌であれば、町内の設置数としましたが、まずは町内の人に知ってもらうことが第一の目的と考えたものなので、町外とはせずに町内の設置数としました。あとは、町民からの投稿数や、レポーターの数としてはどうかと考えています。

続いて、5ページ目をご覧ください。こちらは、結婚に関する事業です。婚姻率が低いという課題を冒頭で申し上げました。婚姻率を上げるために、何かできないかと考えた時に、大事なことは若い人達が参加しやすい場をつくることではないかという意見がありました。例えば、池田町の場合、中学校がひとつという特性を活かして、池田中の1学年、もしくは複数学年またがってもかまいませんが、同窓会を開けば、一度に若い人がたくさん集まれるのではないかと考えています。町が同窓会の企画を支援したり、あるいは会費の一部を支援したりすることによって、若者がゆるやかに集まれる場を作っていきたいと考えています。目標値としては、若い世代の婚姻率や、同窓会等の事業への参加者数が考えられます。

続いて6ページ目をご覧ください。これもひとつの目玉として考えておまして、職業体験、キャリア教育を通じて、児童生徒の郷土愛を育むという事業です。これは意見を伺ったり、調査をしたりする中で、自分の父母がどういう仕事をしているか知る機会が少ない、とか、なりたい職業が決まっていないという実態が見えてきました。そうなりますと、例えば、子どもたちは高校進学時に大垣に出て、大学進学時に名古屋に出て、そのまま池田町に触れる機会がないまま、町外で就職することが考えられます。これを止めるために、中学、高校の段階で、池田町の大人と触れ合える機会を作ってはどうかと考えております。具体的には、町内の企業さんに協力をいただきながら、町内でいきいきと働いている大人と中高生が触れ合えるキャリア教育・職業体験教育プログラムを作っていきたいと考えています。27年度中にプログラムを作りまして、28年度から実施したいと考えています。目標値としましては、将来池田町で働きたいと思う中学生、高校生の数、あるいは職場体験プログラムの受講生数や、プログラムの本数を考えております。

続いて、7ページに移ります。これは、多世代の学び合いによって地域コミュニティの活性化を目指す事業です。これは、池女会からの意見ですが、現在、各公民館で、囲碁や陶芸教室など、246のグループが社会教育に関する活動をしています。ただこういった既存の教室は、既にある仲の良いコミュニティが定期的にやっているというものであって、外から新しく来た人、あるいは1回体験的にやってみたいという人にとっては、ちょっと参加しづらいそうです。そこで、町内の達人から体験的に学べる講座を開催したいと思います。このような体験講座は、既に、町の中で行われているプログラムがたくさんあります。例えば、棚橋牧場というところで、夏休み中ということもあり、牛乳工場の見学ツアーを、子どもを対象にやっていました。このような体験プログラムを募集したり、あるいは必要なものを新しく作ったりして、体験プログラムをたくさん作っていきたくと思っています。具体的な先行モデルとして、富樫先生が企画、実施された「長良川おんぱく」のようなものをイメージしておりまして、そういう体験プログラムを募って、魅力的なパンフレットにまとめて、参加しやすいような形で発信して、多世代で色々なつながりをつくっていきたくと思っています。これは、なかなか新しい人が参加してくれない後継ぎがないと、困られている既存のグループの人たちにとっても、体験参加から続けてやってみようという人材の発掘につながる可能性がありますので、両者にとって良いことではないかと考えております。

27年度に、進めていこうとしている事業は、以上でございます。事業の進め方、例えば、こういう内容はこういう人の力を借りてもっとこうした方がいいのではないかと、といったことですか、目標値の設定の仕方について、ちょっと現実的に厳しいからこのように変えた方がいいのではないかと、というように、事業の進め方や目標値の設定の仕方について、ご意見をいただければありがたいと考えております。よろしくお願い致します。

(岩谷座長)

はい、説明が終わりました。皆様のご意見を賜りたいと思います。

(商工会 松岡)

はい。〈挙手〉

(岩谷座長)

はい、どうぞ。

(商工会 松岡)

4ページの、町民が池田の魅力を見直しという事業ですが、池田町の魅力や観光資源を知らないため、というところで申し上げたいことがあります。池田山麓の桜の名所は、大津谷公園が力を入れていただいておりますけれども、確かに後から作った公園であって、

桜の名所であって、一度に桜が綺麗に見られます。一方、霞間ヶ溪は国定公園にかかっているところでもありますので、なかなか整備、修繕しづらいところがあるかもしれませんけれども、霞間ヶ溪の桜は180種類ぐらいの種類があるようです。大津谷より歴史が古いこともあり、もっと大事に発掘して、PRできないでしょうか。新しく作った大津谷を「いいいいな」と桜の名所にするという事は、私は勝手にいきません。だから、一時期、霞間ヶ溪の下の方まで、桜の若い木を植えたけれど、それは枯れてしまって今はありません。もう少し霞間ヶ溪の桜の名所をこれから大事に、種類も多いし、桜もいろんな桜が、まあ私が聞いたところでは180種類はあるらしいです。それを放っておいて、吉野桜のように、簡単に咲くような桜を大事にすると言うことは、どうかと思うわけです。そういうようなところもひとつ考えていただけたらと思います。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。大津谷は近年、水系もできたため、遊びやすい、集まりやすい、舞台もあると、様々なものがそろってきました。こちらの方に実質、人口移動は動いています。でも、霞間ヶ溪も結構なんだかんだ言いながらも、大切にはしていると思います。

(商工会 松岡)

サクラの苗を植えたけど枯れたままで、放っておいたままです。

(岩谷座長)

はい。これはきつく産業課の方に申しとおきます。はい、国枝さん。

(池田町教育委員 国枝)

今、霞間ヶ溪の桜のことをおっしゃったのですけれども、霞間ヶ溪だけではなく、池田山全体の桜として捉えたらよいと思います。吉野の千本桜がありますが、順番に咲いていって上までいくというようなことを聞いております。地元で池田山の桜を見ておりますと、標高によって順番に桜前線が上へ上がっていくのが見えます。そういうのも池田山の観光をPRする上でいいかなと思います。

(商工会 松岡)

今年3月末に雑誌に掲載された池田山の桜ですが、これは池田町役場のどなたか関係しているのですか。

(牛嶋副町長)

これは、たまたま全国版の雑誌に取り上げられたものであり、大変、珍しいことでした。

(サンビレッジ 小林)

いいでしょうか？

(岩谷座長)

はい。小林さん。

(サンビレッジ 小林)

何点かありまして、池田町に仕事をつくり安心して働けるようにする、これは非常にいいと思いますが、第三次産業だけでなく、既にある、例えば医療とか介護のインフラが、池田町は他の市町村に比べてしっかりしているので、そこで安心して働ける様にする。第一次だけでなく、他の産業にも注目して欲しいということです。

次に、若い世代の結婚、出産、子育ての希望を叶えるとありますけど、出会いとか結婚とかに力を入れるのは良いと思いますが、今は結婚しても4割弱が離婚する時代なので、出会って結婚して子育てしている人だけでなく、様々な生き方をしているお母さんとかお父さんとか、子供がいるので、そういう人たちを全部、その人生の選択肢を支えるというか、そういう人たちが安心して帰って来られるようになれば良いと思います。シングルマザーやシングルファーザーが池田町に帰ってきて、もしくは帰ってこなくてずっと池田町にいても良いのですが、支援を受けられて子供がすくすく育つような複合的な集中したサービスや情報提供が大事だと思います。例えば、私は一人親家庭に関わることがありますが、一人親は、子育てをものすごく頑張っており、情報収集や申請等に時間をとれません。役場に行けば半日以内で全てのことが終了して安心して仕事や子育てができるよう、ワンストップ情報提供が必要だと思います。そういうサービスをすれば、困ってもここに帰ってこれば、仕事もあるし、子育てもできて、のびのびできると、未来志向の子育てと言いますか、そのためには複数の路線をとった生活のパターンというか、人生路線をすべて支えるということがいいのではないのかと思いました。

出生率を上げるためには様々なことがあります。女性が安心して働ける環境を作ると言うことは、非常に大切です。そこを忘れない方が手っ取り早いと思います。

時代に合った地域を作っていくことは、すごくいいと思います。これは福祉教育とも関係があって、子ども達が、色々なところで体験してみて、大人の様子や地域の良さ、協力することの良さを小さいうちから知って、自分の職業の選択に結びつけるというのは、それを率先してやればすごくいい地域になる。そのためのしつらえはかなりできているのではないかなと私は思っており、心強く思っております。以上です。

(岩谷座長)

はい。早田理事。

(早田理事)

ありがとうございます。2点目にお話にあった、シングルマザー、シングルファーザーの方も安心して子育てができるような合的なサービスをとというような話がありました。実は、池田町の離婚率がとても低く、池田町は結婚したらなかなか離婚しない町であることがわかりました。

一方で、アイデア工房会議や池女会では、不登校で悩んでいる子どもやお母さん、障害をもった子どもを抱えて悩んでいるお母さんが他の人と関わりながら、助け合いながら安心して子育てができる、そんなサービスが大事だという意見がでてきて、それについては第4回、第5回のワークショップで深掘りをしたいと考えています。

(サンビレッジ 小林)

池田町の場合、池田町内での離婚というのではなく、他町村へ嫁いでらっしゃって離婚された方でこちらに戻ってきているという方が結構います。

(女性セミナー 勝野)

池田町の場合、離婚率は低いですが、特に男性の婚姻率が低いのではないのでしょうか。何が原因なのか分かりません。役場の方で、出会いの会のようなものを実施しているのでしょうか。

(岩谷座長)

社会福祉協議会の方で、主催してやっていますし、結婚相談等もそちらでやっている。

(女性セミナー 勝野)

ただ、周りを見ていますと昔みたいになんかちょっとお声かけする人が地域でいません。そういう人がいないから、小さな地域でも、女性よりも男性の方が結婚されていない人がちょっと多いような気がします。婚姻率が低いので、もう少し何か対策があればと思います。

(早田理事)

はい、まさにそういう話が、結婚チームでは話題になりまして、町がやっているイベントは、婚活色が前面に出ていて、参加しづらいという意見が参加者の意見でした。担当部長に話を聞いてみますと、男性は参加するけれども、女性が中々イベントに参加しないとのことでした。結婚チームからは、例えば同窓会のような、同世代が集まり、かつ、女性が参加しやすい場を作ることが大切との意見がありました。例えば、社会人になったばかりである23～4歳の方とか、もしくは30前後の方が集まると、そこから色々と発展するのではないかと、期待しています。

(岩谷座長)

今、同窓会という話が出たのですが、池田町には池田中学校が1つあります。成人式の後には同窓会のようなものがありますが、これがあるため、成人式に参加したくないという人がいます。例えば余所から引っ越してきた人です。ですから、同窓会というよりは、同年会的なものでやらないと、若い、引っ越してきた人達には、受け入れてもらえないと思います。

(牛嶋副町長)

これは、開催する前に、どういう形で対象者を絞るかということを考えていく必要があると思います。

<岐阜新聞 馬田 挙手>

(岩谷座長)

はい、どうぞ。

(岐阜新聞 馬田)

社人研の2010年度の調査によると、平均交際期間というのが確か4.8年くらいという数字がありました。そうしますと、例えば25歳までに結婚したい場合、大体21歳ぐらいに出会っててもらいたい。もちろん30歳ぐらいに出会ってすぐ結婚という方もいらっしゃると思うのですけれども、だいたい3年か4年くらい交際してから結婚するというのが今のパターンですので、同窓会、例えば対象年代を決めて、20代前半の3年間は、同窓会強化年齢ですと言ってやると、人口ビジョンの若い世代の婚姻率増加にもつながりやすいのではないかと思います。

それと、6次産業化の事業についてですが、高いデザイン性を取り入れると良いのではないかと思います。岐阜県が、アクティブGで、県産品を売る岐阜ショップというのをやっています。岐阜県が生活雑貨を販売店に依頼するような形なのですが、デザイン性が高いものでないと置かないというお店です。ここで一番売れたのは何かというと、中津川のサラダコスモスという会社で作っている、かりんとうのセットです。200~300円ぐらいです。色々フレーバーがあるかりんとうなんですけど、デザイン性が非常に高い。6次産業化の商品というものは結構出てきてはいると思うのですけれども、その中で目立つのは、やはりデザイン性ではないかと思います。そのデザイン性についての支援というのは、例えば県の産業振興センターがやっています。そういうところを活用すると、より効果が出ると思います。

(岩谷座長)

では、石田さん、お願いします。

(大垣共立銀行 石田)

先ほどから議論がされている、若い世代の結婚・出産についてです。池田町が2060年に、2万人を維持していこうと思うと、農業や観光、また子どもが遊びやすい公園も大切な部分だとは思いますが、やはり結婚・子育てが非常に大事ではないかと思います。当然、人口維持のために、合計特殊出生率1.8%を目指すとのことですが、現状1.4%ということで、1.8%がどれぐらいなのか、イメージが湧きづらいです。子どもを産む女性が、池田町でどう定着するか、どう移住してもらえるか、そしてどういうふう子どもを産んで、そして安心して暮らせるようになるかということに、お金を使う必要があると考えます。以上です。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。遠藤さん、何かご意見よろしいですか。はい、それでは加藤さんお願いします。

(中日新聞 加藤)

7つの事業の話を聞いて、全体のストーリー性があると感じました。特産品の情報発信、それから一次産業と加工販売業者とのマッチングで働くことができ、今度はそこに勤めた若い人たちがコミュニティを活性化して、そこで結婚して、子育てをして、生まれた子どもに郷土愛を育む。循環ができていると感じました。

IT、SNSによる特産品の情報発信と、町民による池田の魅力の再発見・多角的な情報発信を組み合わせたらさらに幅が広がりそうですので、何故、2つの事業に分けたのかと思いました。魅力の再発見については、例えば、ちゃちゃまるのツイッターにリンクさせて、ツイッターに、魅力がはっきりと伝わる写真を掲載すれば良いと感じました。

あとは、多世代の学び合い、地域コミュニティの活性化で、なかなか話し相手が少ないというところ、出会いの場が少ないというところについてですが、色々なつながりをつくることによって、色々な人が色々な世代との会話で悩みが解決する。道路が危ないというのも、お母さん世代と区長さんで話し合いの場ができる。そうすると、先ほどお話しがあったように、イベントをやる時に、みんなでお手伝いをする地域のネットワークができると思います。池田町の場合は多世代交流が) 過渡期というか、都市部のように世代間が完全に断裂されたわけではなく、昔ながらの田舎のつながりが残っていると思います。その部分でつながりをなんとか元に戻していく。なおかつ、消防団もなかなか新しい団員が入らなくて困っていますが、人の結びつきで呼び込めるようになる。次世代のつながりが生まれそうな事業だと感じました。



(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。では、高崎さんお願いします。

(池田町区長連合会 高崎)

非常に難しいこの議題の中で、就職から始まって、結婚、子育てについて魅力あるまちづくりをするとありますと、今やっている池田町の福祉政策、高齢者対策をもっと充実させると、自然と若い人達も「ああ、これならいいね」と集まってくると思います。いずれは若い人達も高齢化しますので、今あるモデル作りをもっと充実させる方が、効果的だと思います。確かに観光は大切ですが、それはそれとして、従来のを進めて欲しいと思います。

(岩谷座長)

では、富樫先生お願いします。

(岐阜大学 富樫)

先ほど、加藤さんが言われたストーリーづくりの話と近いのですが、個別戦略だけではなく、全体としての総合戦略を作成すると良いと思います。

農業については、生産者から、加工販売者だけではなく、その先の消費者や、自分のまちにいいものがあると言ってくれる住民に繋いでいかないと、作るだけで終わってしまい、売るところになかなか繋がらない。その点では、生産者や、販売業者だけではなく、住民の力も必要になると思います。情報発信について、ネットだけではなく、口コミが一番効果的ですが、そういう形で広めていく工夫もいると思います。

それから、ウォーキングのツアーに関する事として、伊吹山でも、ただ登って帰ってくる人がすごく多いです。本当はどこか途中で寄ってもらったり色々なものを食べたり、ということでお金を落としてくれる仕組みがあるといいと思います。観光プログラムの中に、地元で採れたものや地元産業を組み込めれば良いと思います。

それから、岐阜市を中心とした「長良川おんぼく」というイベントをやっていて、今年170プログラム用意しています。何でプログラム数が増えていくかというと、参加者が友達をどんどんひっぱりこんでくるからです。同業者や取引先の繋がり、それから同級生の繋がりもあって、自然と人が集まる雰囲気があるので、増えるのではないかと思います。だから、今の池女会やアイデア工房のような雰囲気を是非継続していき、その中からいくつか実際に「じゃあ、やってみようかな」とか「ツアーやってみようかな」とか「ツアーやる時にあそこの農園とか会社見てもよや」というように実際に動くプログラムが生まれてくるといいと思います。実際はそんなにお金がかからなくて、行政が頑張るのは広報関係くらいだと思います。

それと、一番の理想は、集まっていくことでつながりが生まれて、あわよくばカップルができて、子どもができればと思います。婚活だけを重視すると引いてしまうこともあるかもしれませんが、普段のつながりから、自然とカップルが出てくるのがベストな形だと思います。すぐに数値のように目に見えるものではありませんが、長い目で見れば、一番良い形のまちづくりとか、人口の維持や定住に繋がるかもしれないと思います。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございます。中澤さん、お願いします。

(養老鉄道 中澤)

養老鉄道の中澤でございます。観光の件について、意見を述べさせていただきたいと思っております。先ほど富樫先生もお話がありました、ストーリー性というところでございますが、私、この池田山を活用した観光は非常に面白いと思っております。ただ、では、何故池田山なのか。他の山とは違って、何故池田山に人が集まることができるのかというストーリー性が大切だと思います。例えば名古屋近郊であるから非常に魅力的なのか、池田温泉から山の上までずっと続く坂道を自転車で上がる、今そういうのが流行っていますから、そういうメッカになりうるのか、そのためにはどういう PR をしていくのかということきちっとストーリー立てて、発信していくというのが非常に大事だろうと感じています。

それから、観光の件で、私、常々感じておりますのが、今回は池田町の議論であります。決して池田町だけで観光は完結するものではないと思っております。私も旅行者として色々な地域に行きましたけれども、行政区分を意識しながら観光をしたことはありません。往々にして、過去色々な地域の行政の方々から、「ここまでの地域は我々の税金で使っているけれども、隣の地域は隣町ですから、ちょっとそこまでできません」というお話をよく聞きます。例えば池田山を中心にするとしても、隣の揖斐川町とどう連携するのか、大垣市とどうやって連携していくのか、例えば養老鉄道のサイクルトレインを使って自転車で遊びに来て、池田山で遊んだら、その後揖斐川の方まで廻る自転車コースを提供するなど、他地域との連携を是非この中に加えていただければ、より広がりのある事業になるのではないかなと感じております。以上になります。ありがとうございます。

(岩谷座長)

では、長野さんお願いします。

(JTB 長野)

観光業をやっている立場として、今の流れも含めて、観光の話をさせていただきます。先のお二人がおっしゃっていた全般を聞いていてですけれども、この地域で目指す観光をもう少しはっきりしないといけないと思います。今、観光はブームになっていて、様々な

ところが観光立志と言い出している。でも、一体、何のために観光をやるのかというのをもう少しはっきりしないといけない。

率直に申し上げて、この地域は観光の目玉にはなりえない。手段としてどうやっていくかということだと思います。池田山を活用した観光、これもいいでしょう。いわゆる多元的な情報発信だとか、観光に向けてやってきますよとかいうことはありますが、今の観光というのは、ひと昔前のバスで乗って来て、たくさんの方が来て、またどこか行ったというわけではありません。多分、先ほどの桜の名所の中でも旅行会社と連携してバスを呼ぶことはできるでしょう。旅行会社は毎年毎年新しい所を求めているので、例えば来年来て下さいということになれば、これはできると思います。ただその時に、地域として考えなきゃいけないのは、一万人のお客様に一回来て欲しいのか、それとも千人のお客様でもその方々が10回来てくれる、もしくは、毎年毎年来てくれるという形を目指していくのか。そこを、考えていかなければいけないと思います。当然、目指すべきは後者の方だと思うのですが、そうすると、観光をやった時にバスで来て、ゴミだけ残っても駄目だ、と今色々ところで言われています。では、その中で、いわゆる地域の特産品を活用して、いかにこの地域にお金が落ちるのが大切です。

今、国でもインバウンドと言っていますが、海外のお客様が来て、「ああ、やっぱり観光だ」と言っているのは、お金を落としてくれるからです。百貨店等もどんどん業績が回復している。いわゆる「儲けるために観光をやりましょう」ということになっているわけなので、観光やってその先に、来ていただいたらどこにお金を落としてもらうのか、そこをきちんとこういった KPI の中にも入れていただきたいと思います。まず、この地域に合った観光が、農業がどのくらいの規模なのか分からないのですが、岐阜県としては白川茶、揖斐茶は、お茶として売っていきこうという県等の意向もあります。今、外国のお客様にも、すごく評判がいいです。そういったお茶、例えば無農薬でこうやっているとか、そういうストーリーを固めるのことも大切です。関西のある地域では、お茶畑に色々な体験をするために観光客が来ています。今の観光というのは、バスでどんどん来るのではなくて、いわゆる体験をするだとか、交流をするだとか、それがキーワードになっています。これは、「るるぶ」という、うちの JTB パブリッシングが出している本で、「る・る・ぶ」というのは、実を言うと「見る」「食べる」「遊ぶ」、その末尾を取って作っているのですが、今ここ数年、もう10年くらいで「体験する」「交流する」「学ぶ」、これがやっぱり絶対必要な要素だよ、というふうになっていて、旅行会社も、バスツアーを作る以外の部分は、そういったことを考えてやっています。ですから、観光というのをもう一回見直していただきたいと思います。

それと、名古屋圏から2時間圏内にあることを活かしていわゆる農業体験をやるのも良いと思います。農水省は、都市と農村との交流をもっと促進させて、農業をもっと分かってもらおうということで、農業体験をやることを後押ししてくれる、そういった地域を作っていくというのを、国をあげてやっています。他、内閣府も、そういった

ものを応援していく、いわゆる体験をさせるというのは、例えば地域産品等の価値をわか  
っていただくためにも絶対必要なのです。大都市でプロモーションをやることはいいので  
すけれども、生産者の顔がもっと見えるようになれば、もっと産品を応援してくれる人が  
増えるということで、今年から、体験させる場をもっと作っていきなさいという声が、農  
水省や内閣府からあがっています。また、厚労省でも、おじいちゃん達に体験させて元気  
になってもらおうということをやろうとしています。

こういった最近の動きを考えて、池田町でどうやってやったらいいのということを考え  
ていただく必要があると思います。ワークショップの参加者にこういったことを伝えると、  
もう少し「自分たちの地域でできる観光って、どんな形があるの？」となると思います。

あと、Wi-Fiの整備がありますけれども、これはインバウンド、海外のお客様を呼び込む  
のには必要なのですが、恐らく、この地域では必要ないと思います。海外のお客様が来る  
地域は必要ですけれども、この地域においては携帯電話が通じますので、今の状態で良い  
と思います。では、他に、そのお金を使って何をやるのかということをもう一度考え直し  
た方が良くと思います。以上です。

(岩谷座長)

ありがとうございました。では、松本さん、お願いします。

(工場会 松本)

工場会ということで、労働者の立場から話をしなければいけないかと思いますが、人  
という問題についてお話させていただきます。基本的には、先ほど石田さんが言われたこと  
と同じです。地方創生の総合戦略については、最近3ヶ月か、4ヶ月くらい、新聞、テレ  
ビ等全国どこでも同じ事が言われています。それは、日本の人口を地方で取り合うだけ  
の話ではないでしょうか。私は、先月ベトナムへ行きて、ハノイの近くのゲアン省です  
けが、田舎だと思ったら人口330万人もいる、非常に大きい町でした。工場を回って、  
様々な製品を見てきました。その結果、中国、ベトナムとどんどん人件費が安い方へ人  
が移り変わっていることが現状だと感じました。会社とすると、いかに会社を存続させるか  
という当たり前のことをやっています。そういう中で、池田町に人をとどめていくことを  
考えますと、西濃地域の上場企業がどんどん海外に行かれていますことから国内の採用はあ  
りません。そうすると、人は流出することになります。企業が海外に進出して人も外へ出  
て行く、これは念頭におかなければいけません。

そういう中で、池田町だけの人口増減を考えると、キーマンは女性だと思います。いか  
に若い女性にとって魅力的な町であるかということ、根本的に考えた方がいいと思いま  
す。当然、女性だけで子どもは産めないですから、男性も必要です。だから、こういった  
ことを総合戦略として、長期に考えることは非常に良いと思います。短期に考えた時に思  
うのが、短期で考えても20年後です。20年後のその次は2060年、40年後です。

今やらないと、20年後、40年後はすぐ来ます私達は、人口増減に直接影響する若い女性にどうしたら池田町に住んでもらえるかということをもっともっと掘り下げた方がいいと思います。そういう中では、「池女会」というのをね、今メンバーが27人とかね、これ100人ぐらいに集めて、もっともっと働きかけて、女性からの意見をもっと反映させないと、人口増に結びつかないのではと思います。そういう面でね、我々、企業、池田町の工場会としても、いかに魅力ある工場会というのを目指して、人を集めるかが大切かと思えます。以上です。

(岩谷座長)

はい、ありがとうございました。本当に前向きなご意見や、大分お叱りを込めたご意見まで、沢山いただきました。今度また10月にご参集いただきたいと思います。それまでに今のみなさんからのご意見等を踏まえて、またもう1回事務局の方で練り直していただければありがたいと思います。本日のこの総合戦略版は、とりあえず今日の段階のものは了としたいと思いますが、よろしいですか。

<全委員同意>

はい、ありがとうございます。それでは、次回までにしっかりとしたものをまたご検討していただきますよう、お願いいたします。本日は長時間に渡りまして、ありがとうございました。ご苦労様でした。